

## 甲子道路の開通と地域の活性化



平澤 哲  
道路政策グループ  
首席研究員

### 地域の夢をつなぐ甲子道路の開通

平成 20 年 9 月 21 日、地元の期待を担って一般国道 289 号甲子（かし）道路が開通しました。

この甲子道路は、福島県南部を東西に走る一般国道 289 号にあって甲子峠の前後を連絡する延長約 23.3Km の道路であり、その通行不能区間解消のため、昭和 50 年に福島県が事業着手した後、平成 7 年度に長大トンネル・橋梁を必要とする最も地形が険しい峠区間（5.9Km）について国土交通省（旧、建設省）が権限代行により工事を進めていたものです。

この道路の開通により、福島県の南会津地域と県南地域が新たに結ばれ、両地域の交流促進が期待されます。

このような地方の中山間地、それも急峻な地形を伴う積雪寒冷地域にあって、これまで東西の地域間交流の支障となっていた峠区間を克服し、自由に往来できるルートが整備されたということは、単に両地域をつなぐ交通が確保できるということだけでなく、文化や経済、観光などの幅広い交流を通じた地域ネットワークの形成も可能となったことを意味します。

この甲子道路について、どのような効果があり、また今後期待できるのかについて、以下に連携軸の強化や時間短縮、災害対応などの視点からみていきたいと思います。



図－1 一般国道 289 号甲子道路 位置図



### 甲子道路開通による整備効果

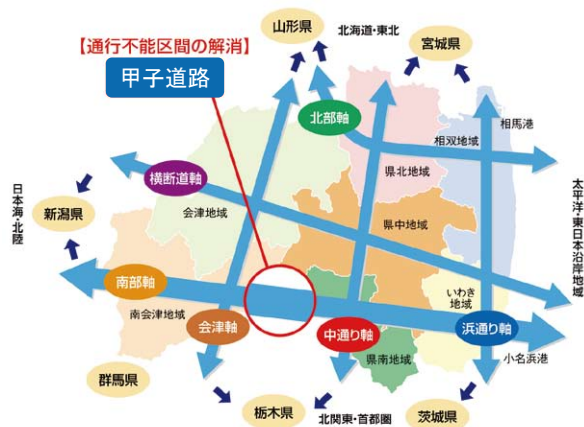
#### 1. 連携軸の強化と時簡短縮効果の例

甲子道路の開通により福島県の 7 つの生活圏を結ぶ 6 本の連携軸が強化されることとなり、例えば白河市～下郷町間などは、急カーブ・急勾配な峠を通過するルートが多く、これまで最短でも約 80 分かかっていたものが、約 50 分へと 30 分もの時間短縮となります。特に豪雪時は、

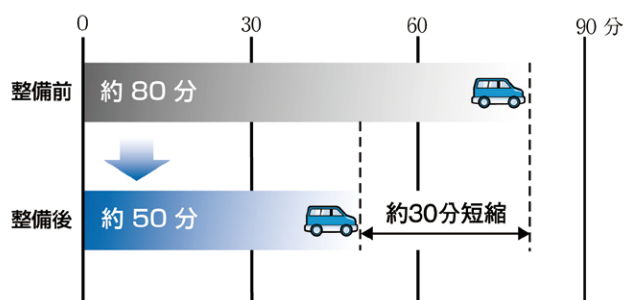
国道4号、49号、または高速道路への迂回を余儀なくされていましたが、今回の開通によって、より安全な冬季交通の確保が可能となります。

また、首都圏から下郷町へは、白河ICから甲子道路を通るルートが約2時間40分の最短ルートになります。

#### 7つの生活圏を結ぶ6本の連携軸



#### 白河市～下郷町間の所要時間の変化



#### 東京～下郷町間のルート別所用時間

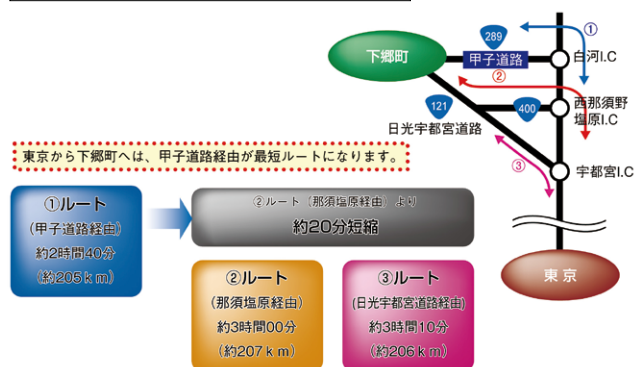


図-2 甲子道路開通による効果

(出典：甲子道路祝開通パンフ郡山国道事務所、福島県)

## 2. 今後期待できる効果

甲子道路の担う機能としては、その他に災害対応や観光支援の機能というものが考えられます。

例えば、下郷町で落石や雪崩などの大きな災害が起こったとしましょう。これまでなら同町の北を走る国道118号を通り、時間をかけて県南地域にある白河市、或いは北上して会津若松市の総合病院まで負傷者を運搬する。また、救助隊も同様に時間をかけて現地に辿り着くといった状況でしたが、甲子道路で直結されることにより、今後は患者を短時間で搬送することが可能ですし、迅速な救助活動も可能となるでしょう。

また観光面からみれば、域内にある大内宿や塔のへつり、湯野上温泉等の優れた観光拠点を那須・塩原や会津地域を通る広域の周遊観光ネットワークに組み込むことで、年間を通じた観光客を恒常的に確保できる可能性があります。

### 甲子道路に見る新たな評価指標の可能性

甲子道路開通後1ヶ月の交通量をみてみると平日平均で約290台/日、休日平均で約750台/日となっています。地方部でこれだけの交通が発生したことは、地域にとって大きな意義があります。

昨今、道路整備はもう不要だと言わんばかりの極論がまかり通る中、交通の量という単純な指標だけでは計れない地域活性化や交流促進のための道路整備のヒントがここにはあるように思われます。

例えば、普段はあまり使わなくても急病などのいざという時に通年交通がしっかり確保され、時間も短縮できる道路がもう1本あるという安心感、今はまだ分からないが自分たちが甲子道路を十分に活かすことで、この地域を活性化できるのではないかという期待感とやる気の創出もまた整備効果の一つと言えるのではないのでしょうか。

残念ながら現在扱われている道路整備効果を現す指標は、こういった要素を十分に反映しているとはいえません。

甲子道路が開通した今後の何年間かのデータの蓄積と分析は、こうした新たな指標の創出の可能性を含んでいるともいえるのです。

国土を多極に分散し、均衡をもって発展させてこそ国全体が豊かになるという理念に立ち返れば、やはり今後とも地方充実のための道路整備の手をゆるめることはできないと思われます。